

令和8年度 アオコ情報（河川 No. 11）

8月14日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度^{※1}の最大値は、新川でアオコレベル1相当^{※2}、備前川でアオコレベル0相当でした。

新川、備前川のアオコレベル

<新川>

- ・ 神天橋でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度：58 $\mu\text{g/L}$ ）、新港橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度：9 $\mu\text{g/L}$ ）でした。

<備前川>

- ・ 岩田橋及び竹中橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度：<5～6 $\mu\text{g/L}$ ）でした。

※<新川河口沖、備前川河口沖及び土浦沖合>

- ・ 荒天のため船での調査は実施しておりません。

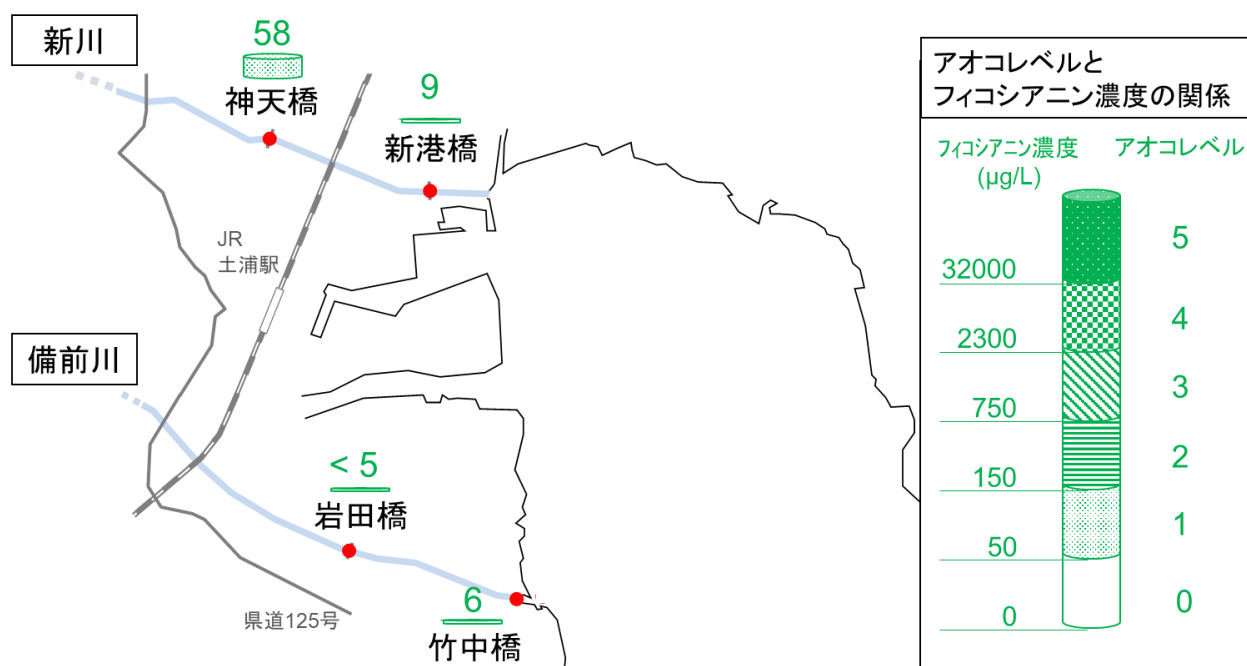


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP: <http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で50 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル2で150 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル3で750 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル4で2300 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル5で32000 $\mu\text{g/L}$ 程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川			備前川			土浦沖合	
	神天橋	新港橋	河口沖	岩田橋	竹中橋	河口沖	①	②
採水時刻	8月14日	8月14日	—	8月14日	8月14日	—	—	—
	9:17	10:11	—	9:34	9:47	—	—	—
水温 (°C)	25.0	25.7	—	25.8	26.8	—	—	—
pH	8.7	8.7	—	9.2	9.2	—	—	—
EC (mS/m)	13.3	10.9	—	9.3	9.6	—	—	—
透視度 (cm)	26	32	—	42	30	—	—	—
フィコシアニン (μg/L)	58	9	—	< 5	6	—	—	—
クロロフィル a (μg/L)	25	7	—	< 5	20	—	—	—

● (参考) アオコレベル (https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000042117.pdf)

